

さだにあらばいと我思ふ事えせじ、猶かくてえあるまじくおぼしめされて、御母宮にまかじかなん思ふと聞えさせ給へば、さらなりやいとあるまじき御事也、みくしげの、御ことをこそ、まことならばすゝみきこえさせ給はめ、さらにくおぼしめしよるまじきことなりと聞えさせ給て、御もの、けのするなりと御いのりどもせさせ給へど、さらにおぼしめしとまらぬ御心のうちを、いかでか世人もきけん、さてなんみくしげ殿参らせ奉らせ給へともきこえさせ給べかなるなといふ事、殿の方にもきこゆれば、まことにさもおぼしゆるぎての給はせば、いかすべからんなどおぼす、さて東宮はつひにおぼしめしたちぬ、さてのちにみくしげ殿の御事もいはんに、中々それはなごかなからんなど、よきかた様におぼしめしけん、ふかくの事なりやな、略中皇后宮にもかくとも申させ給はず、たゞ御心のまゝに殿に御せうそく聞えんとおぼしめすに、むつましうさるべき人もものし給はねば、中宮の權大夫殿能信原のおはします、四條の坊門と西の洞院とは宮近きぞかし、それ計をこと人よりはとやおぼしめしよりけん、藏人なにかしを御つかひにて、あからさまに参らせ給へどあるを、おぼしもかけぬ事なれば驚かせ給て、なにしにめすぞと問はせ給へば、申させ給べき事のさぶらふにこそと申を、このきこゆる事どもにやとおぼせど、のかせ給ことはさりともしよにあらじ、みくしげ殿の御事ならんとおぼす、いかにもわが御こゝろひとつには思ふべき事ならねば驚きながら、参り候べきをおとにわなひ申てなんさぶらふべきと申させ給て、まづ殿にまゐり給へり、東宮よりまかゝなんおほせられたりつると申させ給へば、殿もおどろかせ給て、何事ならんとおほせられながら、大夫殿の御同じやうにぞおぼしよられける、まことにみくしげ殿の御事の給はせんを、いなび申さんもびんなし、参り給なば又さやうにあやしくてはあらせ奉るべきならず、又さては世の人の申すなるやうに、春宮のかせ給はんの御思ひあるべきならずかしとはおぼせど、まかわざと